

トクシコ通信

青森県立北斗高等学校〔定時制〕

【特別支援教育コーディネーター通信】

第3号 発行日:令和7年11月12日

保護者及び教職員対象研修会を行いました

11月5日(水)15:30より、本校において「保護者及び教職員対象研修会」が行われました。

講師に青森県立つくしが丘病院医師の栗林理人(くりばやしみちと)氏をむかえ、『思春期の問題行動とその対応について』をテーマに講演していただきました。

栗林氏は、9月30日まで、弘前大学医学部心理支援学科で教授として教鞭をとっており、10月1日より、青森県立つくしが丘病院の医師として、様々な心の問題を抱えている患者さんと向き合っています。研修会では、保護者や教員にとって、示唆に富んだ助言や教示があり、今後の子供との関わり方にとって、とても参考になりました。

研修会では、思春期病理の時代的変遷、不安・葛藤の表現、不登校・適応障害について、不登校の分類と特徴、小学校高学年から不登校になりがちの人の特徴、記述式・記入式の主な心理検査、Y G性格検査の5つの型、対応の原則ー親、家族ができることー、対応の原則ー学校ができることー、対応にあたり考慮すべき点、不登校が長期化し、ひきこもりがちとなった場合の考慮すべきこと、中高生で不適応が生じた場合に考慮すべきこと、発達障害とは何か？発達障害の種類、知的障害を伴わない事例の増加、ある自閉スペクトラム症患者のWICS-IIIの結果、日常生活において、よく確認される特徴、出立にあたっての配慮ー変化は少ない方がいい！ー、感情と記憶のつながり、自傷行動の種類とその背景にあるもの、治療者の中に生じやすい感情とその変遷について、具体的な事例を示しながら、わかりやすく講演していただきました。最後に質疑応答も活発におこなわれ、実り多い研修会になりました。



- ◆保護者アンケートより◆
- ・子どもの発達や不登校の対応等の専門の方のお話を聞くことができて勉強になった。
 - ・色々な子どもたちや精神的な問題を持っている人と接してきた先生の話だからこそ、なるほどと心に刺さった。